

## 長崎県地域医療構想策定にあたっての委員からの意見まとめ

【目標】 将来の医療と介護を支える人材の育成・確保

少子高齢化、人口の流出により、医療、介護を支える人材が不足しており、連携して人材育成を行う。

1. 増加する在宅医療に対応するための医療的知識を持つ介護人材の育成
2. チーム医療による医療機関における認知症ケアの充実
3. 回復期を担うPT、OTなどの人材を確保
4. 大学が担うべき役割の整理と、誰もが安心して医療を受けられるため、適切な医師の配置
5. 看護師等の人材教育の場としての急性期病床の確保
6. コメディカルが地域に定着するためのワークライフバランス等環境の改善
7. プライマリ・ケアを支える総合診療医の育成の推進
8. 産科、小児科など、偏在している医師を確保するための体制の整備
9. 具体的な将来予測に基づいた、医師や看護師の需給見込みの検討

【目標】 離島・へき地の実情を反映した医療提供体制の確保

集落が点在し、在宅医療等の提供が極めて非効率、また、人口減少による人材の確保が困難な離島、へき地の実情に応じた医療提供体制を整備する。

1. 基幹病院（公的病院）が担う高度急性期、急性期医療の役割の明確化
2. 基幹病院の専門医による地域の医療機関のバックアップ体制の構築
3. 介護施設やサービス付高齢者住宅等の整備による訪問診療等の効率化
4. 長崎、佐世保、福岡など流出先医療圏との高度急性期、急性期機能分担
5. 義務年限制度や医学修学資金貸与制度と専門医制度の両立による医師の確保
6. 在宅医療等の整備が困難であるため、一定数の慢性期病床を確保
7. 24時間対応可能な訪問看護ステーションの整備
8. 移動距離が長い訪問看護、介護サービスを支援する体制の整備
9. 助産師等、多職種による産科医療の確保

【目標】 医療機能の分化と連携による効率的な医療提供体制の確保

疾患ごとにバランスのとれた配置と、医療機能の役割分担により、効率的な医療提供体制を構築する。

1. 「急ぐ急性期」について、時間内に医療が提供可能な救急医療体制の整備
2. 疾患ごとの詳しいデータに基づいた急性期医療機関の適切な配置
3. ICT（あじさいネット）を活用した地域連携パスの活用促進
4. 基金を活用した回復期病床への積極的な転換
5. 医療機関における認知症を抱えた患者への適切な対応
6. 地域医療構想についての県民への適切な情報提供による受療の適正化
7. 医療計画における「5事業5疾病」と整合性のある、構想区域における高度急性期医療の提供体制の整備
8. 2次医療圏内での格差に配慮した救急医療体制の構築
9. がん終末期医療の提供体制の整備（機能の分化）
10. 疾病の早期発見・重症化予防のための健診等の受診率向上に向けた周知、啓発

【目標】 医療、介護、予防、生活支援が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築

住みなれた地域で安心して生活できるため、地域全体で支える医療を確立する。

1. 在宅医療等に対応するため、地域の中小病院、診療所がバックベッドを確保
2. かかりつけ医、歯科医、薬剤師が在宅医療等を提供するための体制の整備
3. 介護施設との救急医療連携
4. 在宅療養支援診療所の充実
5. 急変時の一時預かり施設の整備
6. 在宅での看取りを推進するための意識改革啓発や介護施設の整備
7. 入院から退院まで一貫した口腔ケアの提供
8. 看護スキルが標準化された職員が中心となる介護施設の整備
9. ICT（あじさいネット）を活用した在宅医療等における多職種の情報共有
10. 家族の介護力の低下に対応するための、多職種連携による退院カンファの推進
11. 認知症をもつ在宅療養者に対する地域における支援体制の構築が必要
12. 小規模訪問看護ステーションを集約する管理機能の設置
13. 認知症、医療依存度の高い方を受け入れる地域密着型の施設や複合型施設（小規模多機能型居宅介護）の整備